

3-5.環境

海を抱くように丸く都市が広がるインナーハーバー地区の地理的特徴に着目し、海を中心に据えた戦略を提案します。

効率的なエネルギー循環をつくり出すことで、超低炭素型社会のモデル地区として横浜全域全体の目標である CO-DO30 以上の温室効果ガス排出削減を目指します。

海と海に注ぐ川や地区周辺に残された緑地を活かして、インナーハーバー地区と周辺市街地とを結ぶ浜風の道を形成し、ヒートアイランド問題の解決を目指します。

多様な生物が生息する浄化機能の高い海へと水質の向上を図り、市民が触れ、親しみの持てる魅力的できれいな海をつくります。また港の魅力アップにつながる水質浄化を横浜から全国、世界に向け発信します。

また、歴史的な建造物や海や川、オープンスペースなどの資源を活かして、豊かな海や緑をより身近に感じることでできるような景観の形成をはかります。

■ 具体的なビジョン

・多様な環境技術の導入

- ー工場などの廃熱利用
- ー建物上部を活用した太陽光発電
- ー海水などを利用したヒートポンプ

・地域ごとの自律分散型のエネルギー利用

- ー地域の小さなまとまりでエネルギー利用をネットワーク化・最適化

・基幹的エネルギーネットワークの整備

- ーリング状の公共交通ネットワークとあわせて、地区全体に熱エネルギーのネットワークを整備

・豊かな海づくり

- ー河川や海域沿いの親水空間の創造
- ー郊外の市街地、川、海を流域単位で一体的にとらえた水質浄化

・緑の保全、創造

- ー多くの人が眺める場所や生活に身近な場所を魅力的に緑化
- ー地域コミュニティや地域活動組織が緑の管理・運営に参加

・地区の資源を活かした景観の形成

- ー歴史的建造物、産業施設、海を中心に抱いた地勢、豊かな海辺や緑を活かし、魅力的な景観を形成

3-6. 交通

地区内の生活・産業・交流を支え、超低炭素型社会を実現するため、過度に車に依存しない交通体系を提案します。

交通機関相互の乗り継ぎ場所の整備や、定額運賃など運賃制度の見直しにより、公共交通ネットワークによる円滑な移動が行えるようになります。その結果、地区内での過度な自動車利用が抑制され、温室効果ガス削減にもつながります。

誰もが歩きやすい人間中心の歩行者空間と公共交通ネットワークの充実により、環境への負荷ができるだけ小さく抑えられながら、地区内のさまざまな活動が支えられています。

■ 具体的なビジョン

・内水面を最大限に活用する水上交通

- ー既存の交通体系を補い、水際線沿いの移動を円滑化
- ー水上タクシーやヨットなど、多様な水域利用も可能にする施設整備

・リング状の公共交通システム

- ー地区全体がリング状に結ばれ自由な往来が可能となる、地上運行する省エネ型交通システムの整備
- ー段階的に整備され、交通需要に柔軟に対応できる仕組みの構築

・利便性の向上

- ーコミュニティサイクルやカーシェアリングなど、共有型交通システムの普及
- ー公共交通を補完するパーソナルモビリティや電気自動車、ヘリコプターなどに対応したインフラの整備

・超低炭素型社会を実現するための交通体系

- ー駐車場や道路など、自動車交通のための施設機能を、交通需要に適切に対応して転換
- ー歩行者、自転車、パーソナルモビリティ、電気自動車、水上交通や、バスなどの公共交通を快適に利用するためのインフラ整備の推進

・地区外とのつながり

- ー交通拠点としての横浜駅の機能強化
- ー新幹線駅や羽田空港など、国内外への玄関口となる拠点とのアクセス向上
- ー海の玄関口となる大さん橋ふ頭の機能強化

3-7.交流

今後、人口が減少していく社会の中で、この地区の活力を高めていくために、海外から人や企業、投資などをさらに積極的に受け入れ、国際色豊かで多様な交流の場を創り出すことが必要不可欠です。また、「都市文化」をインナーハーバー地区の都市づくりの中心に据えていくことが重要です。

観光客をはじめ、地区に集まる多様な産業・研究開発の従事者や、将来の担い手となる留学生など、多くの外国人が地区内で活動するようになり、国際的な交流が生まれます。

地区内に集まるさまざまな人々が交流できる場が設けられ、これまでにない新たな知識・文化が生み出されるようになります。

■ 具体的なビジョン

・国際都市横浜を象徴する交流拠点

- 外国人が自由に居住、生活、仕事、研究ができるような環境の充実
- 地区の中心に位置する瑞穂ふ頭には、海外の運営主体による情報発信拠点であり、また国際的な文化・ビジネスの交流拠点でもある「インターナショナルパーク（仮称）」を創出

・知識、文化を生み出す多様な人材の交流

- 市民と企業、大学などとの交流が生まれ、地区全体が一つの大きな研究機関・教育機関のような環境の形成
- この地区に集積する知識や文化の、横浜市内や世界への発信
- 市内の大学や研究所等の連携
- 将来の担い手として広く世界から人材を集めるための、特に大学院への留学生の積極的な受け入れ
- 留学生が横浜に愛着を持ち、将来も繋がりを持って働きたいと感じるような生活環境支援を行うなど、広く世界と繋がる人材交流の創出

・文化芸術創造都市の展開

- 国内外に横浜の文化を発信するイベントの実施
- 文化芸術交流拠点の更なる立地と活動の活発化
- すべての横浜市民が創造的に暮らすことのできる環境づくり

3-8.産業

これまでの創造都市構想を発展させ、多種多様な産業や人材が、融合、協働、交流することで、常に新しい都市活動を生み出す都市を目指すことが必要です。

先端技術などの産業拠点が立地し、それを支える人材が国内外から集まり、交流することで、新たな産業が生み出されます。

歴史的建造物や産業遺産、広大な水面など、この地区ならではの資源が保存・有効活用されるとともに、文化・芸術・食や娯楽などを楽しめる複合的な施設の開発や、それらを活用したイベント等を通じて地区の魅力が高まり、国内外から多くの観光客が訪れにぎわいます。

■ 具体的なビジョン

・ 多様な産業の育成と、国内外からの人材の受け入れ

- ー 創造的産業や、環境・バイオ分野、先端医療分野、機械・ロボットテクノロジーなど、時代に即した先端技術の育成・新たな産業分野の発展
- ー グローバル企業、研究開発施設、教育機関など人材育成拠点の立地の促進
- ー 多様な人材が交流する場の実現

・ 観光産業の活性化

- ー 歴史や文化など、地区の魅力の再発見
- ー コンベンション施策から「MICE（マイス）^(※)」施策への発展
- ー マリーナ機能や、スポーツレクリエーション等の施設の充実
- ー 複合エンターテインメント施設の開発
- ー 工場や研究施設に着目した産業観光、高度先端医療との組み合わせによる医療観光、文化体験を組み合わせた創造観光（クリエイティブ・ツーリズム）などのニューツーリズムの推進

・ 生活を支える産業の充実

- ー 日々の生活を支える商業・サービス業などの充実
- ー マリーナ機能などが住民の新たなライフスタイルに組み込まれ、魅力ある暮らしを形成

※ MICE：MICE とは、Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention(国際機関・団体・学会等が主催する総会、学術会議等)、Event/Exhibition(イベント・展示会・見本市)の頭文字をとった言葉。

3-9.生活

海や港のある立地や開港以来の多様な文化や産業に寛容な横浜の風土を将来にわたり引き継ぎ、子どもから高齢者、海外からの移住者など多様な人々がみな暮らしやすい地区を目指すことが求められます。

また、居住や教育、労働、余暇など日常生活の様々な場面を地区内で過ごすことができ、それぞれのサービスを地区内の人々が担い、経済的にも地区内で循環する仕組みを設け、地域コミュニティ主体の地域社会づくりを進めることが重要です。

地域コミュニティの充実が進む間に、住民一人ひとりが地区を誇りに思い、地区のために活動し、この地区に魅力を感じた来訪者が増え、さらにまちの魅力が増し、一層愛着が強くなるという循環が生まれ、住民同士の連帯感が育ち、暮らしやすい地区となっていきます。

■ 具体的なビジョン

・市民が海に親しみ、開放的な雰囲気を楽しむことができる空間づくり

- ー海に面した水際線沿いの遊歩道の整備
- ー水面越しに対岸のまちを眺めるオープンスペースの創出
- ー散歩やジョギング、水遊びやシーカヤックができる海辺づくり
- ー水上交通でアクセスする水辺の生活空間づくり

・誰もが公共、公益サービスを受けられることができる、便利な市街地

- ー水上交通や新しい仕組みの公共交通が発達
- ー乗換えの利便性を高め、待ち時間を少なくする交通の仕組み
- ー外国人を含めた誰もが、医療サービスをはじめとした公共・公益サービスを安心・快適に享受できる環境の形成

・新しい地域コミュニティの仕組みによる、暮らしやすさの持続

- ーお互いの個性を活かし合いながら、公益的な視点を併せもつ住民の共同体の創出
- ー現在行政が主体となっている計画・事業・管理への、地域コミュニティの積極的な参加の促進
- ー海や川、樹林地や公園、歴史的資産などについての、地域コミュニティによる保全・育成とその継承